

第 13 回大学教育研究セミナー  
学生からみた「大学での学び」  
—初年次教育のあり方を考えるために—

大阪市立大学では現在、初年次教育の充実に関する調査や検討が進められているところです。初年次教育は、学士課程教育という、学生の大学入学前の経験とは様相の異なる「新しい学びの世界」へ、学生を移行させるための教育活動の総体です。そのため、初年次教育のあり方を検討するためには、「そもそも学士課程教育とは何なのか」についての議論と共通理解が欠かせません。この問題については、教員・研究者による議論や研究が行われてきましたが、実際に大学で学んでいる学生から見て、「本学の学士課程教育での学び」はどのように語られるのでしょうか。学生の視点から大学教育がどう見えるかという問題は、今後の学士課程教育のあり方に関する議論を進めていく上で、非常に重要な観点であると思われまます。

本学の文学研究科では、教育促進支援機構による新入生ガイダンスで、上回生が新入生にガイダンスを実施するという取り組みを続けてこられました。その中で彼らは新入生に「大学での学びはどのようなものか」について解説をしています。また平成 23 年度からは、上回生が先輩（チューター）として加わった初年次教育科目も展開されています。これらの取り組みの中で学生が学士課程をどのように実感し、どのように語っているのかを知ることで、学生から見た学士課程教育の形を理解できるのではないかと思います。そこで、第 13 回大学教育研究セミナーでは、文学研究科の教育促進支援機構や初年次教育の設計に中心的な役割を果たしておられる福島祥行先生から、これらの活動の中での学生の姿を紹介していただくことになりました。

貴重な実践報告を伺えますので、教職員の皆様には奮ってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

第 13 回 大学教育研究セミナー

日時：2011 年 12 月 2 日（金） 10 時 40 分から 12 時 10 分

場所：全学共通教育棟 2 階会議室

話題提供：福島祥行（文学研究科教授）

「学生の考える『大学での学び』

——文学部・文学研究科教育促進支援機構の事例から——」

司会：西垣 順子（大学教育研究センター）

主催：大学教育研究センター

共催：初年次教育運営委員会